

京都府漁海況情報

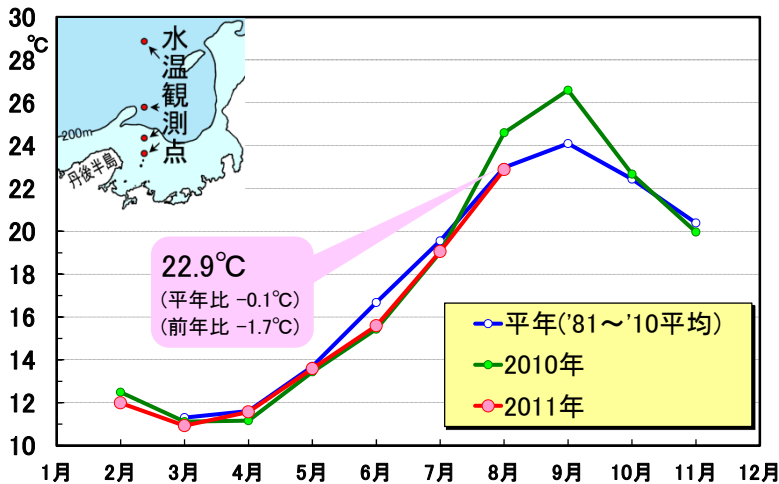
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話: 0772-25-3078 FAX: 0772-25-1532

海の状況

【現況】

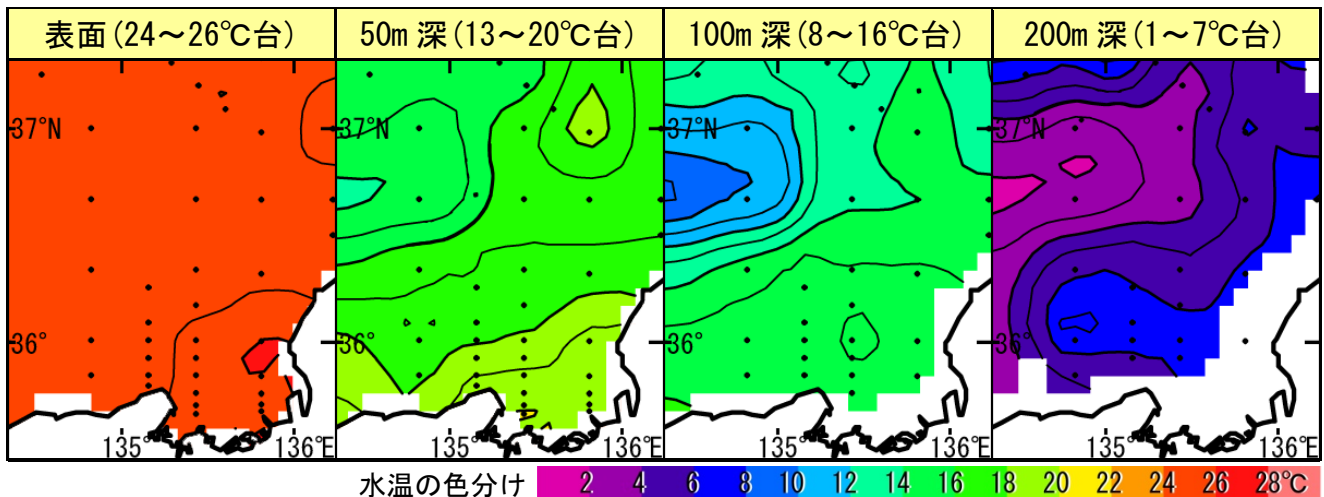
8月上旬における京都府周辺の表層水温は、平年並みで推移していました。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2011年8月上旬)

資料元: (独)日本海区水産研究所



【今後の見込み】

資料元: 気象庁, (独)日本海区水産研究所

向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並みか平年より高め」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年より強め」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し*	「平年よりやや弱め」で推移する見込み

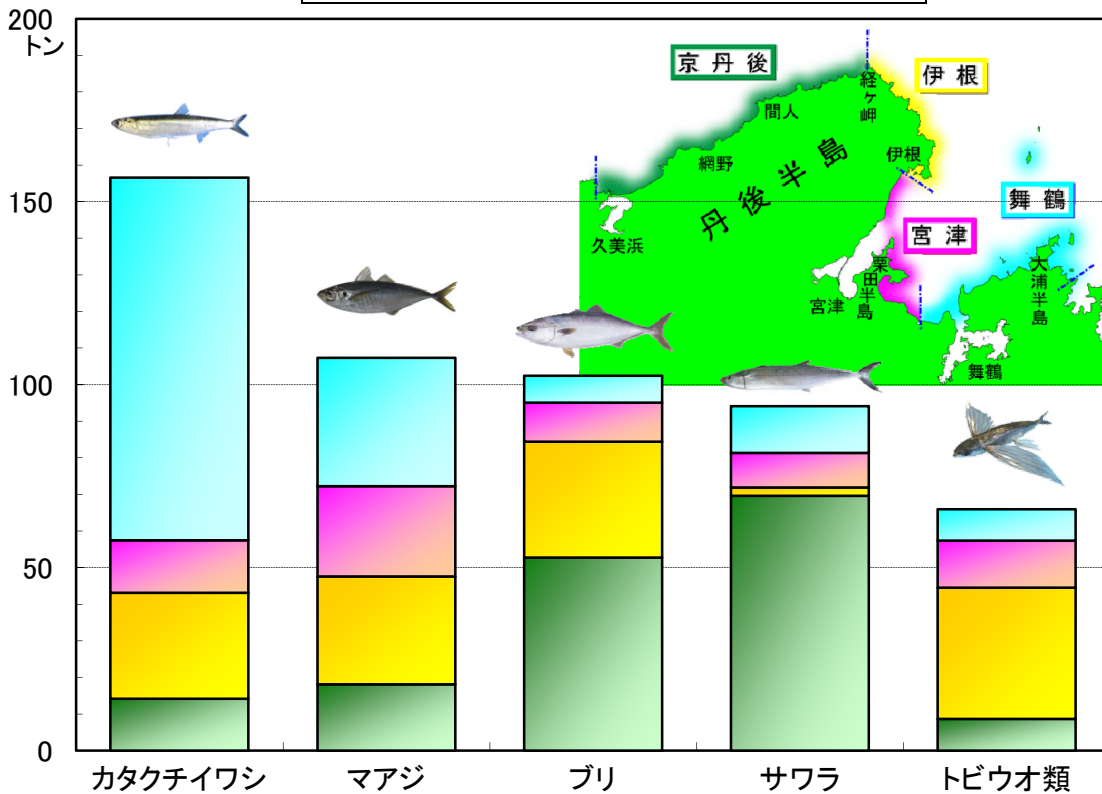
*冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすいと考えられています

漁模様 ～2011年7月～

【定置網漁業】

カタクチイワシやマアジの漁模様が芳しくなく、全体の水揚量は平年の7割弱でした。

2011年7月の地域別漁獲量(上位5魚種)



7月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2011年	2010年(前年比)	平年(平年比)	備考
カタクチイワシ <small>(たれ)</small>	156.6	245.6 (64%)	356.5 (44%)	<カタクチイワシ> 小たれ(体長4~7cm)が漁獲の中心でした。
マアジ	107.3	56.6 (190%)	208.4 (51%)	<ブリ> つばす銘柄(尾さ長10~30cm)が3割弱、はまち銘柄(尾さ長40~50cm)が5割弱、まるご、ぶり銘柄(尾さ長60~70cm級)が2割強でした。
ブリ	102.4	39.0 (262%)	58.0 (177%)	<サワラ> さごし銘柄(尾さ長50~55cm級中心)が9割以上、さわら銘柄が若干量でした。
サワラ	94.1	106.5 (88%)	96.9 (97%)	<イカ類> ケンサキイカ(白いか)が29.3トン、スルメイカが3.7トンなどでした。
トビウオ類	66.0	30.1 (219%)	72.8 (91%)	
イカ類	33.1	50.4 (66%)	24.2 (137%)	
サバ類	9.4	4.2 (222%)	33.3 (28%)	
カマス類	7.4	4.3 (175%)	7.5 (99%)	
タイ類	5.7	13.1 (44%)	7.6 (76%)	
スズキ	5.7	13.7 (42%)	8.3 (69%)	
その他	38.7	45.0 (86%)	75.2 (52%)	
合計	626.6	608.6 (103%)	948.6 (66%)	

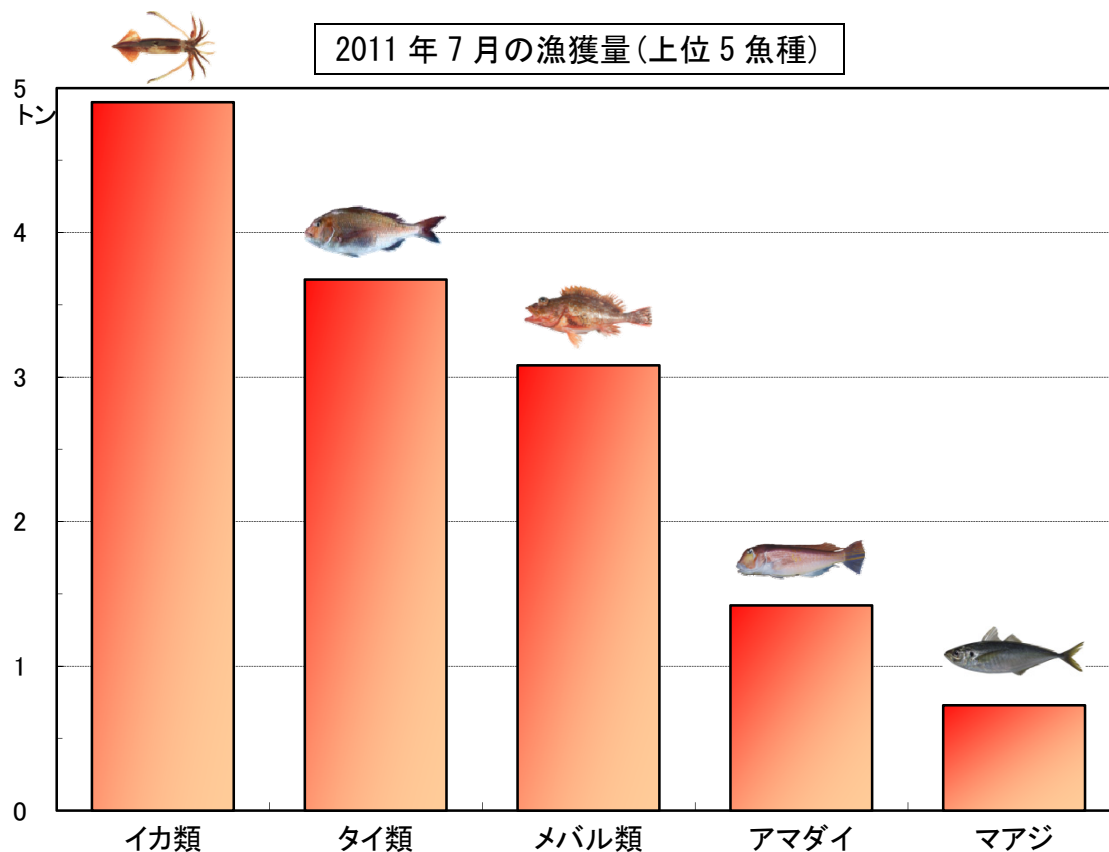
平年は過去10年平均

【底曳網漁業】

資源保護のため、6月1日から8月31日まで休漁です。

【釣り・はえなわ漁業】

全体の水揚量は平年の8割弱でした。



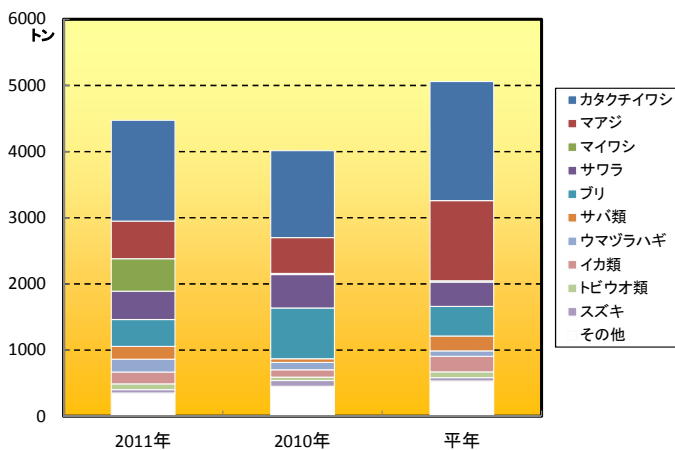
7月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2011年	2010年(前年比)	平年(平年比)	備考
イカ類	4.9	5.5 (90%)	7.8 (63%)	<イカ類> スルメイカが2.7トン、ケンサキイカ(白いか)が2.2トンなどでした。 <タイ類> マダイとレンコダイが各5割弱、クロダイが若干量でした。
タイ類	3.7	3.8 (96%)	3.4 (109%)	
メバル類(もいお)	3.1	3.9 (79%)	2.9 (106%)	
アマダイ(ぐじ)	1.4	1.6 (91%)	2.1 (69%)	
マアジ	0.7	1.3 (58%)	1.0 (74%)	
ブリ	0.4	0.2 (214%)	0.3 (163%)	
カレイ類	0.4	0.1 (413%)	0.9 (42%)	
スズキ	0.2	0.2 (106%)	0.2 (111%)	
タチウオ	0.1	0.1 -	0.5 (13%)	
カワハギ	0.1	0.1 -	- -	
その他	4.2	4.7 (88%)	6.4 (66%)	
合計	19.2	21.5 (89%)	25.4 (75%)	

平年は過去10年平均

【トピック ～定置網の漁模様(平成 23 年上半期)～】

全体の漁獲量は昨年の 1.1 倍、平年の約 9 割にあたる 4500 トン弱でした。

主要魚種の中では、昨年と同様にマアジの落ち込みが目立ちます。日本海の資源水準は中位で少なくないことから、若狭海域への来遊状況がよくなかったようです。若狭湾周辺では春先から初夏にかけて平年より水温が低く、不漁だった昨年同期と似ています。来遊時期の鈍い昇



温が漁場の形成に影響したかもしれません。対照的にマイワシは大幅な漁獲増となりました。資源水準は低位ながら増加傾向とみられ、今後の資源動向が注目されます。また、ほぼ平年並みの水揚げとなったサワラとブリの資源水準はともに高位とみられ、来遊条件が整えば今年の下半期も主要魚種の一角を占めると予想されます(各魚種の資源動向は水産総合研究センター調べ)。

1 月～6 月合計漁獲量(トン) 京都府漁連集計

魚種	2011年	2010年(前年比)	平年(平年比)	備考
カタクチイワシ(たれ)	1522.8	1316.2 (116%)	1796.0 (85%)	<p><カタクチイワシ> 混ぜり銘柄(カタクチイワシの他に小さなアジ類やサバ類, マイワシ等も混ぜたもの)も含めて集計。</p> <p><マイワシ> 小羽銘柄(体長 15cm 前後の 1 歳魚)が中心でした。</p> <p><サワラ> さごし銘柄が 7 割弱, さわら銘柄が 3 割強でした。</p> <p><ブリ> つばす・はまち銘柄が 7 割強, ぶり銘柄が約 2 割, 残りがまるご銘柄でした。</p> <p><イカ類> スルメイカが 113 トン, ケンサキイカ(白いか)が 28 トン, ヤリイカ(冬いか)が 24 トン, アオリイカ(秋いか)が 6 トンなどでした。</p>
マアジ	567.0	539.5 (105%)	1213.2 (47%)	
マイワシ	491.6	17.7 (2778%)	19.2 (2562%)	
サワラ	429.7	503.5 (85%)	369.0 (116%)	
ブリ	404.5	767.7 (53%)	446.6 (91%)	
サバ類	194.9	57.6 (339%)	224.2 (87%)	
ウマツラハギ(長はぎ)	193.2	107.8 (179%)	82.1 (235%)	
イカ類	179.3	111.8 (160%)	235.7 (76%)	
トビウオ類	86.7	50.3 (172%)	85.8 (101%)	
スズキ	51.5	89.0 (58%)	51.7 (100%)	
タイ類	47.1	32.2 (146%)	42.5 (111%)	
マルアジ(青あじ)	45.8	28.0 (164%)	110.4 (42%)	
カマス類	28.6	23.6 (121%)	41.9 (68%)	
マグロ類	26.1	60.4 (43%)	32.5 (80%)	
カナガシラ	20.0	26.3 (76%)	24.0 (83%)	
ヒラメ	13.9	16.9 (82%)	17.0 (82%)	
マトウダイ類(ぼと)	10.7	16.1 (67%)	7.4 (146%)	
アンコウ	7.5	8.0 (93%)	7.6 (98%)	
ホウボウ	6.7	25.9 (26%)	16.0 (42%)	
タコ類	6.4	6.9 (93%)	8.9 (73%)	
メバル類	4.4	1.8 (247%)	3.0 (147%)	
カレイ類	4.3	5.4 (80%)	5.7 (75%)	
メジナ(つかや)	4.2	3.8 (109%)	2.8 (148%)	
カワハギ(丸はぎ)	4.2	9.7 (43%)	11.5 (36%)	
サンマ	3.9	6.8 (57%)	20.6 (19%)	
その他	115.9	180.0 (64%)	180.4 (64%)	
合計	4471.0	4012.9 (111%)	5055.6 (88%)	